

やまはく の天体望遠鏡

「ほっとやまはく」
 タイム③②



天体望遠鏡は どこにある？

天文分野の展示を見たお客さまから、山口博物館の天体ドームや大型屈折望遠鏡は「どこにあるの？」と質問されることがあります。これらは展示室では見ることができませんが、本館の屋上に直径5.5mの天体ドームが



博物館の外観。屋上に銀色の直径5.5mの天体ドームがある



ニコン社製20cm屈折望遠鏡

あり、そのドーム内にニコン社製の20cm屈折望遠鏡が設置されています。屋上にあるので、博物館前のパークロード辺りから見上げないと天体ドームの存在には気が付きません。

天体ドームと望遠鏡

収蔵している 天体望遠鏡

冒頭で紹介したニコン社製20cm屈折望遠鏡をはじめ、当館には、歴史的価値のあるものから現代のものまで、およそ21種31点の天体望遠鏡を収蔵しています。

それらの中から紹介する1点目は、江戸時代後期〜明治時代に製作されたと思われる真ちゅう製の

2段式の天体望遠鏡です。対物レンズは2枚合わせで色消しレンズのよう

うで、接眼部にサングラス（太陽観察用の遮光ガラス）が組み込まれていることから、明らかに天体観測用です。この接眼部には接眼レンズ（凹レンズ）が四つ取り付けられていて、倍率が変われるという珍しい機構が付いています。また、毛筆の取扱説明書が残されています。

2点目は、57（昭和32）年に製作された15cm反射望遠鏡です。反射望遠鏡には凹面鏡という鏡が使われているのですが、この望遠鏡の鏡には、鏡磨きの名人と呼ばれた木辺茂磨（きべ・しげまる）さんが製作した主鏡と副鏡が使われているのです。望遠鏡はレンズや鏡の直径が大きいほど性能が良く鮮明に見えるのですが、名人が製作した鏡はとても精度が良いので、一回の大きな望遠鏡よりも良く見えるそうです。貴重な望遠鏡なので、天文担当の私もこの望遠鏡を使って星を見たことはありません。チャンス



江戸時代後期から明治時代に製作された天体望遠鏡

年に本館の建設とともに設置され、55年経過した現在でも観望会で活躍しています。望遠鏡のレンズは直径20cm、焦点距離240cm、筒の長さは3.4m、重量1.5tという大変大きなものです。他の小型望遠鏡は観測準備室にあり、貴重なものは収蔵庫で大切に保管しているので、皆さんが当館の天体望遠鏡を見ることが出来る機会は、残念ながら観望会のときだけでした。

今回は、このようなやまはくの天体望遠鏡のうち、特に珍しい2点について紹介します。

があれば、収蔵している望遠鏡を並べて見比べてみたいものです。

現在開催中の企画展「やまはくの天体望遠鏡」（4月9日まで）では、美しい天体写真や映像と共に、今回紹介した貴重な天体望遠鏡2点と観望会で活躍した天体望遠鏡10点と合わせて、計12点を展示しています。天体ドームの見学ツアーも不定期ですが開催しています。ぜひ企画展で天体望遠鏡や星の魅力を感じてください。詳しくは当館ホームページをご覧ください。

岩村和政（学芸員・天文担当）

▽次回は22日です。

山口県立山口博物館
 TEL083-922-0294
 月曜休館（祝日の場合は翌日）。
 最新情報はホームページで



企画展の会場